

動物の診察室から

○ 48 ○

乳び胸の手術を行うことになったクウちゃんですが、状態は非常に悪いので、麻酔を担当する獣医師は朝から付ききりにあります。そして、獣医師2人で手術を行い、外回りでは胸の吸引や輸血の準備などで、数人のスタッフが必要で、そのため他の手術は予定を延ばしてもらったのですが、猫のチビリンちゃんは今早く手術する必要があります。

病気は違いますが、液

# 助けられず家族に謝罪

## 手術まで (下)



ご家族で会いに来てくれました

と謝りました。手術まで持っていけなかったのは、やはり私の責任です。クウちゃんが死んでも、他の動物

たちの診察はいつものように続きます。

がありました。チビリンちゃんは、昨年の8月の終わりに流産して具合が悪くなり治療を受けました。そのときの病気は、「膿胸」といって胸の中に大量の膿が溜まる病気でした。

そして、膿胸の場合には、胸の中にチューブを設置して胸の中の膿を抜いて、毎日胸の中を洗浄

します。チビリンちゃんは無事に回復したのですが、また妊娠をしてしまったので、今回も流産する危険性がありました。そのために、予定は延ばさずに、朝のうちに手術をすることにしていたのです。

体が胸に溜まる膿胸がなかったチビリンちゃん、これから手術を受けるクウちゃんと同じ部屋にいます。不思議な偶然です。

翌朝、6時にクウちゃんを診察したあと、チビリンちゃんの手術の準備に入りました。そして、7時にチビリンちゃんを麻酔をかけるため迎えに

いったところ、隣の入院室でクウちゃんが静かに息を引き取っていたので、すぐに、お母さんに電話をしましたが、お母さんはクウちゃんが死んだことが信じられず、「どうして、クウちゃん、死んだんですか？」と繰り返して聞かれました。クウちゃんは、心臓水のため、

心停止が起こったと思われしました。そして、その日の午後、お嬢さんたちが学校を終わってから、ご家族でクウちゃんを迎えにこられました。お母さんたちは、クウちゃんは今もう

すぐ2歳の誕生日だったのにと、クウちゃんを抱いてみんなで涙を流しました。私は、クウちゃんを抱いて泣いているお嬢さんたちに、「大丈夫だよ」と言っただけなのに、助けられなくてごめんなさい

そんな中、2日後に1通の手紙が届きました。クウちゃんのお家のお嬢さんからでした。クウちゃんは天国へ行ったけど、治療してくれて、ありがとうと書いてありました。

そして、クウちゃんが亡くなって7日後、ご家族で、他のわんちゃんも連れてあいさつに来てくれたのでした。

クウちゃん、そしてご家族の皆さま、ありがとうございました。

草村 正人 (獣医師・新潟市)

＝毎月第2・4木曜掲載＝